



石州会 薬局

(第9号)

医薬品タイムリー情報 注射用カリウム製剤の適正使用

「カリウム製剤投与間違い撲滅 キャンペーン」実施中 日本看護協会

カリウム製剤は、希釈せずにワンショット静注してしまうと
不整脈や心停止など重大な結果を招く

【投与間違い発生状況】 (※1)

医療事故情報収集等事業に報告のあったカリウム製剤の急速静注に関連した事例

発生年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	合計
発生件数	1	0	3	0	1	2	7

- 1、医療事故は、報告義務対象医療機関と参加登録医療機関からの報告
- 2、急速静注に関連した事例のみの件数

【採用品】



KCL注10mEqキット10mL



アスパラギン酸カリウム注10mEqキット10mL

【過量投与时】 (※2)



頻脈・不整脈の出現



悪心・嘔吐などの
胃腸症状



しびれ感などの
筋肉・神経症状

【標準的投与】

K濃度の基準値	3.5~5.0mEq/L (ミライクイバレント/リットル)	
使用基準	投与速度	20mEq/hr以下
	投与濃度	40mEq/L以下 (末梢) 血管痛が発現する
		60mEq/L以下 (中心静脈) (※3)
	80mEq/L以下 (鎖骨下、大腿静脈等) (※4)	
1日量	100mEqを超えない	

★ ICUの監視下で、高濃度のK溶液(K:20mEqを生理食塩水100mLに溶解)により
Kを20mEq/hrで比較区的安全に投与できたとする報告がある (※5)

誤投与防止対策

【カリウム注射製剤による事故防止】

- ① 原液のままの投与は絶対にしない
- ② カリウム注射剤を使用するときには必ず輸液で希釈し、よく混和する
(輸液との比重の違いを解消する為、KCLは着色されているのでこれを目安に十分に溶解)
- ③ カリウム濃度、投与速度、1日投与量を遵守する
(輸液に含まれているカリウム量も考慮する)
- ④ ③を逸脱するような場合は高カリウム血症の早期発見に注意を払う

【採用品の誤投与防止対策】

- 付属の専用針を使用。三方活栓や他の注射針などの機器との接続ができない構造になっている
- 薬液注入孔が針先ではないため、輸液バッグ以外の他の機器に接続しても、薬液は注入できない構造になっている



ハイリスク薬

アスパラギン酸カリウム注
10mEqキット「テルモ」10mL

ワンシヨト静注厳禁

(必ず希釈して使用すること)

使用しなかった場合は速やかに
薬局に返却すること

ハイリスク薬

KCL注10mEqキット「テルモ」10mL

ワンシヨト静注厳禁

(必ず希釈して使用すること)

使用しなかった場合は速やかに
薬局に返却すること

参考資料

- ※1 日本看護協会 資料
- ※2 ナビトレ 絶対に間違えてはいけないハイリスク薬 古川裕之 メディカ出版
- ※3 長野県病院薬剤師会北進支部学術講演会 2004.04.10
- ※4 JJSHP, VOL. 28,NO. 12(1992)
- ※5 低カリウム血症治療薬とその処方 薬局 Vol. 42, No. 3(1991)